

# 国際交流シンポジウム IS01

## 最先端医療に向けた創薬化学

### Medicinal Chemistry for Advanced Therapy

佐々木 茂貴<sup>1</sup>, 徳山 英利<sup>2</sup>

<sup>1</sup>九大院薬, <sup>2</sup>東北大院薬

2008年に日本薬学会(PSJ)と韓国薬学会(PSK)は薬科学の発展を図るため相互の研究者交流を促進する覚書を交換した。その後2009年第129年会(京都)へのYoung Choong Kim PSK会長の招聘から始まり、2014年には韓国春季大会(ソウル)に柴崎正勝会頭はじめPSJ講演者2名、PSK講演者2名でのシンポジウム(Cancer Metabolism)が開催された。

2015年は日本での開催の順番であり、日韓ともに創薬の活動が活発になっていることから「最先端医療に向けた創薬化学(Medicinal Chemistry for Advanced Therapy)」というシンポジウムタイトルとし、委員からの推薦をもとに招待講演者が決定された。日本からは内藤幹彦先生(国立医薬品食品衛生研究所)の病原性タンパク質を分解するプロテインノックダウン法とSNIPER化合物の開発、安達邦知先生(田辺三菱製薬)スフィンゴシン1-リン酸受容体の最初の修飾薬フィンゴリモド(FTY-720)の発見と多発性硬化症治療薬への展開についてご講演いただく。韓国からはKyeong Lee教授(Dongguk University)に、新規抗がん剤としてHIF経路阻害剤の設計とケミカルバイオロジーについて、また、Mi-Kyoung Kwak教授(The Catholic University of Korea)に、癌における酸化ストレスへの防御システムについてご講演いただく。創薬化学に関心のある多数の聴衆の参加と討論を期待しています。